



ミネベア株式会社決算説明会

2004年3月期第3四半期決算

2004(平成16)年 2月6日

代表取締役社長執行役員 山本 次男

2004年3月期第3四半期連結業績

(百万円)	2003/3期	2004/3期		3Q 伸び率	
	3Q	2Q	3Q	前年同期比	前四半期比
売上高	68,723	67,252	68,728	+0.0%	+2.2%
営業利益	5,519	5,208	4,531	-17.9%	-13.0%
経常利益	4,036	4,273	3,707	-8.2%	-13.2%
税引前利益	3,735	4,122	3,590	-3.9%	-12.9%
純利益	1,889	2,305	1,622	-14.1%	-29.6%

2004年2月6日

1



2004年3月期の第3四半期の業績は、売上高687億円、営業利益45億円、経常利益37億円、当期純利益16億円となりました。

昨年度第3四半期、また、今年度第2四半期と比べて増収でしたが、減益となりました。

第3四半期セグメント別収益

機械加工品セグメントは増益

(百万円)	2003/3期				2004/3期			3Q 伸び率	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	前年同期比	前四半期比
[売上高]									
機械加工品	31,668	28,641	28,723	29,085	28,606	27,059	27,434	-4.5%	+1.4%
ベアリング関連製品	26,420	23,638	23,845	24,035	23,959	23,169	23,324	-2.2%	+0.7%
その他機械加工品	5,249	5,002	4,879	5,050	4,646	3,892	4,109	-15.8%	+5.6%
電子機器	40,699	36,241	40,000	37,144	37,883	40,193	41,294	+3.2%	+2.7%
回転機器	20,793	18,140	20,521	19,734	21,458	22,184	22,209	+8.2%	+0.1%
その他電子機器	19,908	18,097	19,480	17,412	16,424	18,011	19,084	-2.0%	+6.0%
合計	72,367	64,882	68,723	66,230	66,489	67,252	68,728	+0.0%	+2.2%
[営業利益]									
機械加工品	5,098	4,065	4,771	4,585	4,908	4,270	5,035	+5.5%	+17.9%
電子機器	933	80	748	△ 929	△ 648	937	△ 503	-	-
合計	6,031	4,145	5,519	3,657	4,259	5,208	4,531	-17.9%	-13.0%

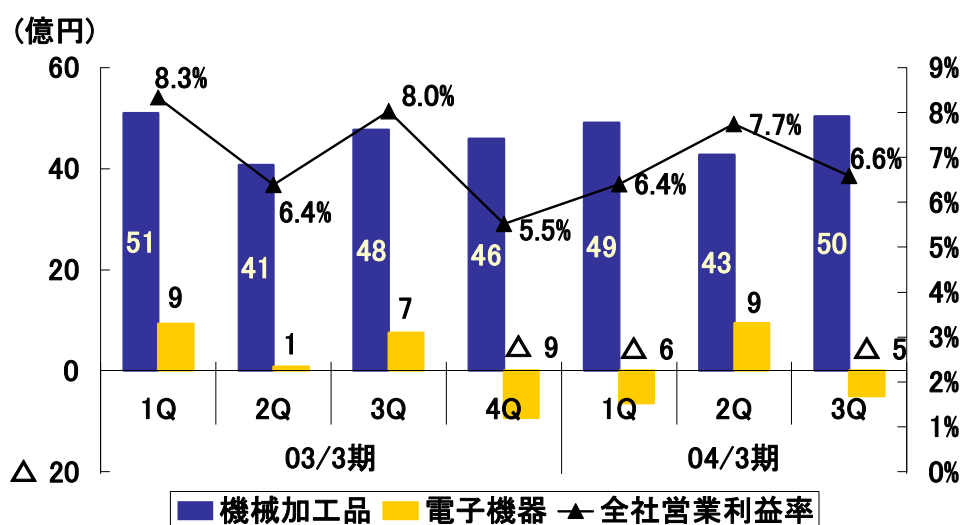
2004年2月6日

2



四半期毎のセグメント別収益です。

セグメント別営業利益推移



	03/3期				04/3期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
機械加工品	16.1%	14.2%	16.6%	15.8%	17.2%	15.8%	18.4%
電子機器	2.3%	0.2%	1.9%	-2.5%	-1.7%	2.3%	-1.2%

(機械加工品セグメント営業利益率: 外部売上ベース)

2004年2月6日

3



機械加工品セグメントの営業利益は50億円と、第2四半期との比較では増益となりました。これは、数年来進めてきたボールベアリングやピボットアッセンブリーの拡販とコスト低減施策の成果によるもので、営業利益率も18%台まで大きく回復しました。

一方、電子機器セグメントは5億円の赤字と、予想を下回る成績となりました。これが、今回業績が悪化した最大の理由です。

第3四半期の実績について

- 主要製品で過去最高の生産・販売数量を更新した。
ボールベアリング、ピボットアッセンブリー、スピンドルモーター 等
- 継続的な単価引き下げ圧力と為替変動の影響があった。



ボールベアリングの拡販及び生産効率改善を中心とした施策の成果により、機械加工品では利益率を大幅に改善、利益も拡大。
電子機器の収益性が悪化、全社業績の低下の要因となった。

計画との差異が大きい部門:

スピンドルモーター

キーボード

2004年2月6日

4



第3四半期は、主要製品が過去最高の販売数量を更新しましたが、為替変動の影響もあり、全般的に単価が下落しました。このようななか、ボールベアリングでは、コストの大幅な削減を実現しました。

電子機器製品の収益性の悪化は、特にスピンドルモーターとキーボードの業績が大きく見込みを下回ったことによります。

スピンドルモーターの第3四半期の売上高は第2四半期を上回りましたが、単価引き下げ圧力が強く、コスト削減が単価下落に追いついていません。

3.5インチHDD向けの顧客層の拡大と、2.5インチHDD向けの参入を目指し、安定的な量産納入を続け、顧客から高い信頼を得られるよう基盤整備を重点的に進めてまいります。

キーボードの第3四半期の売上高は大きく回復しました。また、上海新工場は順調に生産が引き上がっています。ただ、業績は、タイからの生産移管と新工場立ち上げに関わる費用の負担が大きく、見込みを大幅に下回る結果となっています。

早期にタイからの生産移管を進め、新工場へ集約し、収益性を高めるようにします。

第3四半期販売の状況

ピボットアッセンブリー、
スピンドルモーター、
ライティングデバイス、
キーボードが増収

機械加工品セグメント

売上高
ベアリング
関連製品

ベアリング関連製品

ボールベアリング：売上高(売上比率 23%) 前四半期(2Q)比 -2%、
数量では2Q比10%増、エアコンやファン向けが好調。

ロッドエンド・スフェリカルベアリング：(4%) +0%、横ばい。

ピボットアッセンブリー：(7%) +10%、HDDの好調とシェア拡大の成果。

回転機器

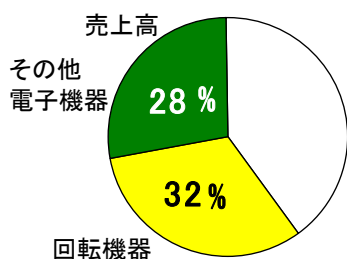
その他機械
加工品

スピンドルモーター：(17%) +5%、3.5インチHDD向けに販売拡大。

ファンモーター：(9%) -6%、ゲーム機用の需要軟調とPC関連向けの
伸び悩み。

ステッピングモーター：(7%) -2%、数量拡大だがODD向けが増加。

電子機器セグメント



その他電子機器

キーボード：(11%) +25%、販売が回復。

エレクトロデバイス：(7%) +6%、ライティングデバイスの販売を拡大。

パワーエレクトロニクス：(4%) -9%、電源事業終了過程に伴う減収。

スピーカー：(4%) -15%、季節要因。

2004年2月6日

5



ボールベアリングについては、第3四半期の外販は好調に推移し月平均1億個を突破しました。売上金額が減少している理由は、中国向けエアコン用608やファンモーター向けが増加しているという、プロダクトミックスに起因する平均価格の下落と為替変動であります。

ピボットアッセンブリーについては、10月、11月のHDDの需要の好調のほか、シェア拡大の成果により、大幅な販売増に成功しました。

第3四半期 用途別売上高・海外地域別売上高

PC及びOA向けの売上が拡大
家電のうちベアリングとファンモーターは好調

用途別売上高

	自動車	航空・宇宙	家電機器	情報通信機器(OA)	PC及び周辺機器	モータ	その他	合計
売上高比率	7.6%	8.6%	8.3%	11.4%	47.5%	5.2%	11.5%	100.0%
前四半期比伸び率(2Q比)	+1.3%	+1.6%	-13.5%	+9.2%	+6.1%	-4.7%	-1.9%	+2.2%
前年同期比伸び率(昨年度3Q比)	+9.2%	-6.2%	-10.2%	+26.5%	-0.1%	-6.2%	-8.9%	+0.0%

地域別売上高

	日本	アジア(除日本)	北米	欧州	合計
売上高比率	25.7%	45.6%	17.2%	11.5%	100.0%
前四半期比伸び率(2Q比)	+7.6%	-0.9%	+3.5%	+1.4%	+2.2%
前年同期比伸び率(昨年度3Q比)	-1.2%	+11.8%	-17.3%	-7.3%	+0.0%

為替の影響を除くと、
アジア地域の売上高は
2Q比6%増、前年比22%増
中華圏での伸びが牽引

2004年2月6日

6



用途別売上高

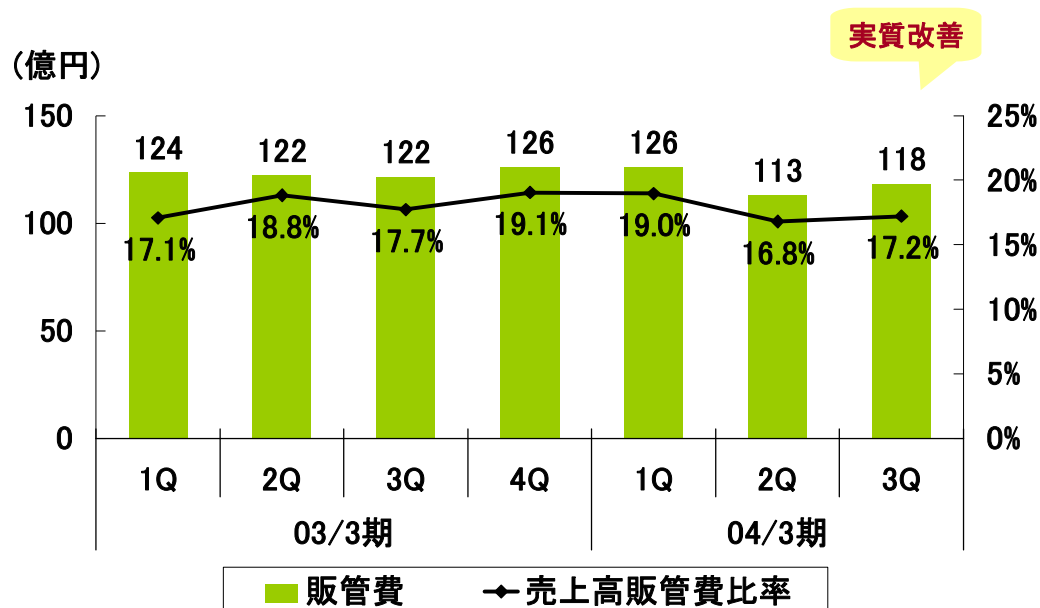
第3四半期は、PC関連向けとOA機器向けの販売が好調でした。家電向けではベアリングとファンモーターは好調でした。

地域別売上高

第3四半期は、為替が大きく影響したため、上記のような結果となっていますが、全地域で売上が増加傾向にあります。

アジア地域の売上高は、為替の影響を除くと大幅な増収でした。増収分の大半が中国圏からです。

販管費推移



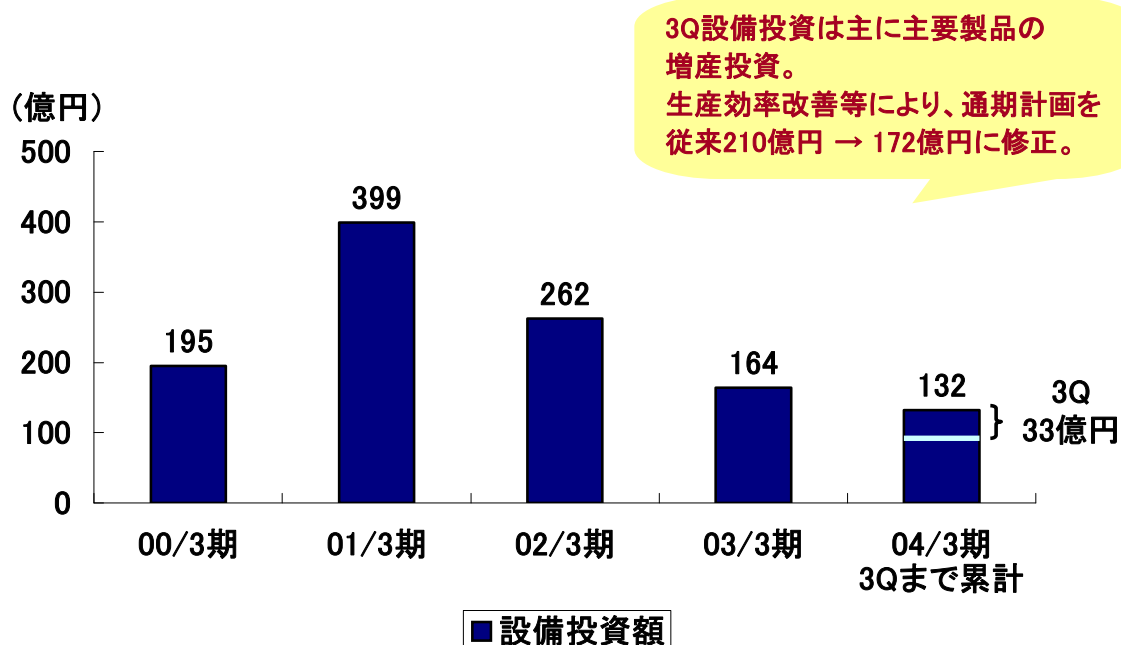
2004年2月6日

7



第2四半期より若干上昇しましたが実質改善しています。
 円高の影響による連結売上高の目減り(約40億円)がなければ、販管費比率は16.9%と、実質、第2四半期の水準を維持することができました。

設備投資額推移



2004年2月6日

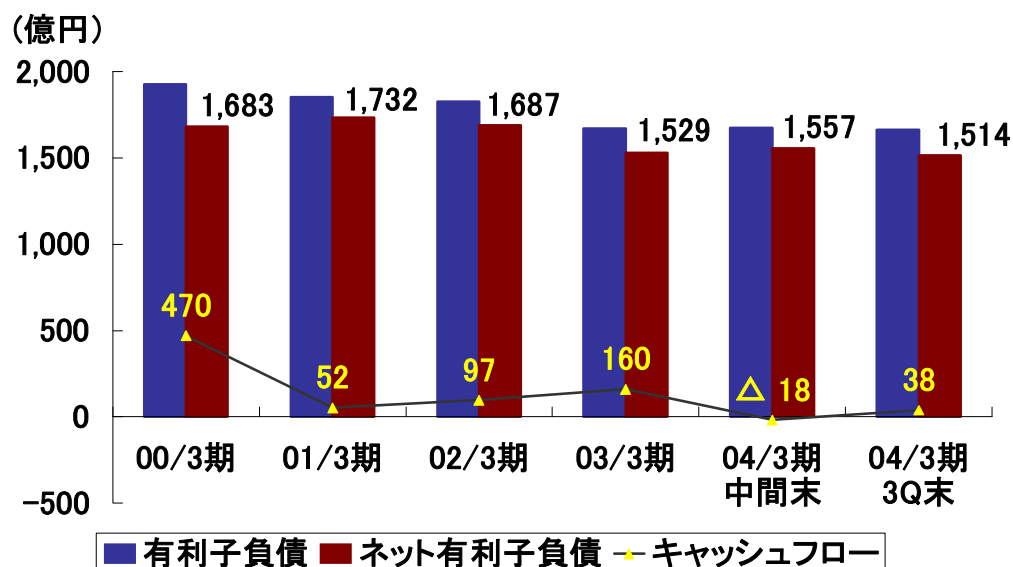
8



第3四半期の設備投資額は33億円でした。主にボールベアリング、キーボード、ピボットアッセンブリー、スピンドルモーター事業で増産投資を実施しました。

今期はボールベアリングの増産に必要な投資額を見直した他、全部門において徹底的な生産効率の改善に取り組んでいます。通期では、前回計画の210億円をさらに削減し、172億円を予定しています。

有利子負債推移



2004年2月6日

9



第3四半期末の有利子負債は中間期末から43億円削減し、ネットベースで1,514億円となりました。3月末までに期初計画を上回る、ネットで1,500億円を切る水準になる予定です。

ボールベアリング事業

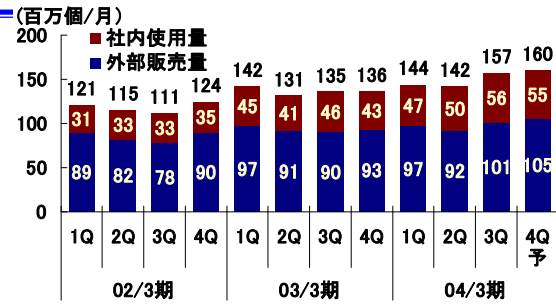
- ミニチュア・小径ボールベアリング事業の拡大・強化施策は順調に進展。
- 外販数量が安定的に月1億個台に。社内使用合わせた販売数量は半年で10%以上の上乗せ。
- 社内使用の増加はピボットアッセンブリーの販売拡大の成果。
- 単価下落を上回るコストダウンにより利益率を維持拡大。

上海ベアリング展

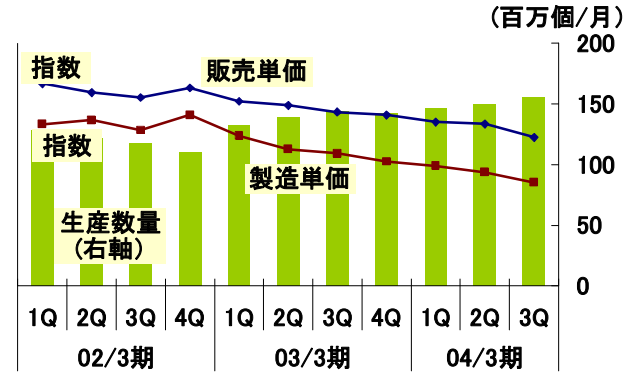


2004年2月6日

ミニチュア・小径ボールベアリング販売数量推移



ミニチュア・小径ボールベアリング販売・製造単価推移



10



第3四半期は、ボールベアリングの販売・生産拡大戦略の成果がはっきり表れてきました。社内使用も合わせた数量は上期と比べ月1,000万~2,000万個増加し、10%の上乗せとなっています。中華圏での販売増が特に貢献しています。

第4四半期は販売がさらに拡大する見込みです。

ユーザーの海外への生産移管が続いていますが、日米欧でも販売が増加しています。家電向けや自動車向けの新分野開拓とシェア拡大により、販売を引き続き拡大してまいります。

HDDスピンドルモーター事業

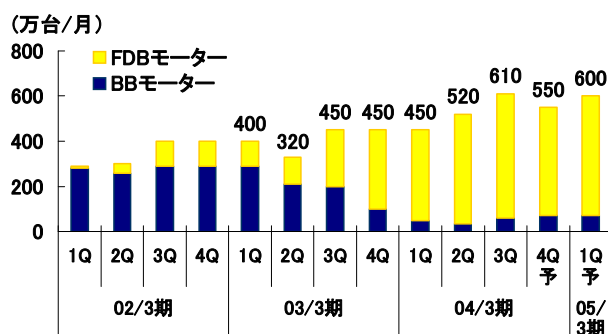
- 3.5インチデスクトップHDDの需要は家電向けへ拡大。4Qの平均月産550万台は一時的な需要調整の影響。
- 1.8インチHDD向けBBモーターが増加。
- 採算性改善に引き続き注力。
- 2.5インチFDBモーターの開発は進行中。



PMDM(小型モーター開発拠点(独))増設

- ◇ 3,000㎡の新社屋建設により、建屋面積を1.3倍に拡大予定。投資額は約10億円を予定。
- ◇ 新規モデルの開発に対応し、FDBモーター新製品の開発体制の強化を図る－性能検査・耐久性試験エリアの確保。

HDDスピンドルモーター販売数量推移



2004年2月6日

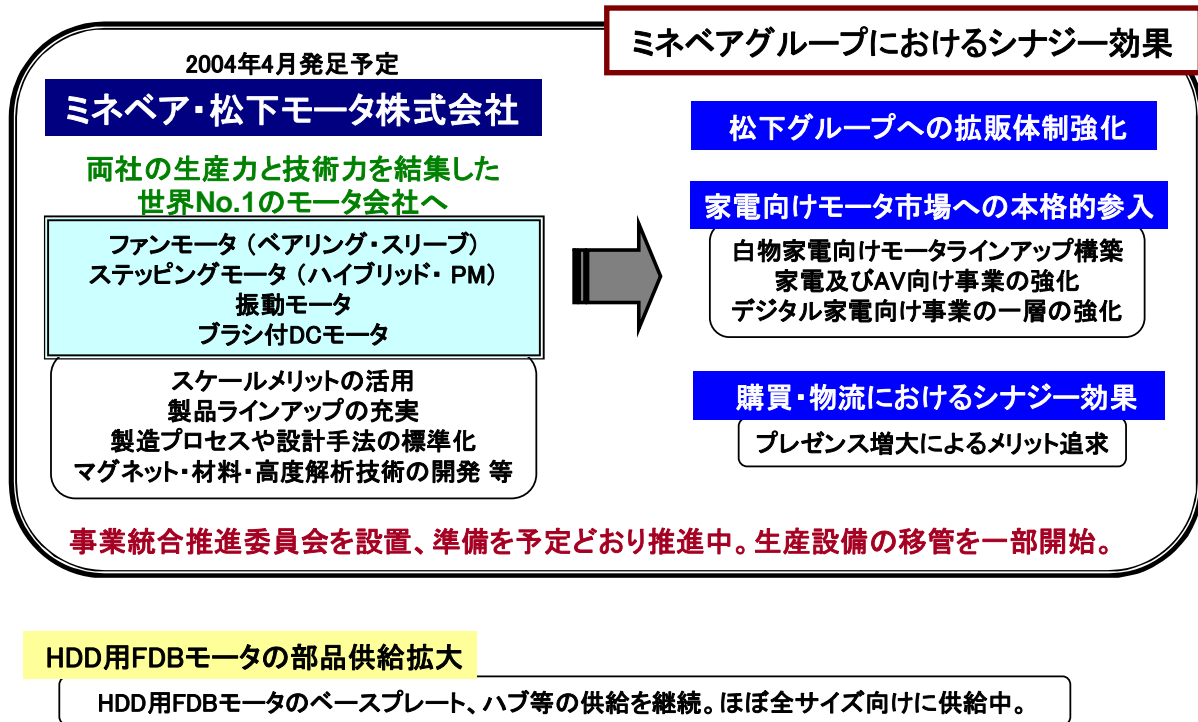
11



3.5インチデスクトップHDDの需要調整が見込まれるため、1-3月期の販売は10-12月期より約1割減の月550万台の予想となっています。

ドイツの小型モーター開発拠点、PMDMの増設に着手しました。将来の需要を見越して、FDBモーターの開発体制を強化するものです。

松下電器産業株式会社とのモータ事業統合



2004年2月6日

12



今年4月1日に発足予定のミネベア・松下モータ株式会社の事業統合最終契約書が2003年12月19日に締結されました。

ミネベア・松下合同の事業統合推進委員会が設置され、営業・技術・製造・資材・物流・情報システム・人事総務等の準備作業を急速に進めています。

ミネベアの実産力と松下の開発技術力の統合が生み出すシナジー効果を初年度から最大化すべく、松下のファンモータ設備について一部の上海ミネベアへの移管や、新製品の開発などが既にスタートしています。

松下グループが使用可能なモーターの特定や、設計の見直し等が積極的に進められています。これらのモーターは、他の家電メーカー各社においても大量に使用されていますので、製品の横展開を図り、家電各社への売り込みを積極的に開始しています。

今後も両社の関係強化を積極的に進めてまいります。

電子機器セグメントその他の主要事業

キーボード事業

- SSTの立ち上げは順調に進展しているため、タイからの移管を半年前倒しで実施。2005年3月までに完了予定。
- 移管作業に伴う固定費負担増により収益性が一時的に低下。

キーボード生産スケジュール



ライティングデバイス事業

- 一時的な調整はあるが売上・受注は順調に拡大。新製品開発を強力に進め、今春モデルの携帯電話搭載用として、多数の新規受注獲得に成功。

継続的な技術対応

- ◇ 高輝度化、高精細化
- ◇ 薄型化
- ◇ 一枚導光板両面照射
- ◇ 1灯LEDコーナー照射
- ◇ 大型液晶対応(動画対応)

2004年2月6日

13



キーボード事業

SSTの12月の生産は約50万台に達し、2004年3月には月産100万台を予定しています。タイからの移管を前倒しで実施しておりますが、移管作業は半年早まり、2005年3月までに完了します。

ライティングデバイス事業

売上・受注は順調に拡大しています。1月も当社製品が採用されている新製品数機種が発売になりました。新製品開発を強力に進めた結果、携帯電話の主要機種での新規受注獲得に成功しています。バックライトは世代交代が早いという製品特性がありますので、継続的な技術対応が不可欠です。そのなかで、次世代機種用の新開発の当社製品は好評を得ています。

今期重点施策(2003年5月発表)の進捗状況

施策6項目

1. ボールベアリング事業の拡大及び強化
2. HDDスピンドルモーターの黒字化
3. ピボットアッセンブリーの採算性改善
4. その他の電子機器製品事業の収益性回復
5. ファンモーター事業の一層の拡大
6. 電源及び関連事業の終了

2004年2月6日

14



今期の重点施策の主なものについては、上記説明のとおりです。

ピボットアッセンブリーは第3四半期の業績でボールベアリングとのシナジー効果が大きく表れています。来期の需要増を見込み、現在、生産能力を引き上げ中です。単価についても一時のような下落感は無くなりました。

電源事業は1月に生産を完全に終了しました。

第4四半期の見通し

1月以降の需要環境

- 景況感は引き続き改善傾向にあるが、円高の影響が懸念される。
- PC関連と3.5インチデスクトップHDD向けは2月まで調整の見込み。家電やデジタル家電の需要は伸長。

機械加工品 ボールベアリングを中心に収益性の一層の引き上げ
電子機器 新規需要の取り込みとコスト低減を図る

業績見込み



(億円)	3Q 実績		⇒	4Q 修正予想	
	売上高	営業利益		売上高	営業利益
機械加工品	274	50	⇒	284	55
電子機器	413	△ 5	⇒	401	△ 5
合計	687	45	⇒	685	50

通期 売上高 従来 2,750 ⇒ 修正 2,710 億円 営業利益 従来 210 ⇒ 修正 190 億円

2004年2月6日

15



事業環境や為替変動、また、電子機器セグメントの状況を踏まえて、通期業績予想を修正します。売上高は従来予想 2,750億円に対して、2,710億円、

営業利益は従来予想 210億円に対して、190億円を見込みます。

機械加工品については、ボールベアリングを中心にさらなる収益性の引き上げを見込んでいます。

電子機器については、需要の調整が予想される中で、新規需要の取り込みを図り、一層のコスト低減を図ります。

2004年3月期通期業績予想

(百万円)	2003/3期		2004/3期		伸び率 前年比	従来予想 通期
	通期	上期 実績	下期 予想	通期 予想		
売上高	272,202	133,741	137,259	271,000	-0.4%	275,000
営業利益	19,352	9,467	9,533	19,000	-1.8%	21,000
経常利益	13,420	7,558	7,742	15,300	+14.0%	17,000
税引前利益	495	6,299	7,801	14,100	28倍	16,000
純利益	△ 2,434	2,726	3,974	6,700	-	8,500

2004年2月6日

16



通期業績計画は上記のとおりです。

通期セグメント別収益見込み

(百万円)	2003/3期		2004/3期		伸び率 前年比	従来予想		通期 従来予想 比
	通期	上期実績	下期予想	通期予想		下期 予想	通期 予想	
〔売上高〕								
機械加工品	118,117	55,665	55,835	111,500	-5.6%	59,335	115,000	97.0%
ベアリング関連製品	97,938	47,128	47,622	94,750	-3.3%	50,272	97,400	97.3%
その他機械加工品	20,180	8,538	8,212	16,750	-17.0%	9,062	17,600	95.2%
電子機器	154,084	78,076	81,424	159,500	+3.5%	81,924	160,000	99.7%
回転機器	79,188	43,642	44,608	88,250	+11.4%	46,058	89,700	98.4%
その他電子機器	74,897	34,435	36,815	71,250	-4.9%	35,865	70,300	101.4%
合計	272,202	133,741	137,259	271,000	-0.4%	141,259	275,000	98.5%
〔営業利益〕								
機械加工品	18,519	9,178	10,522	19,700	+6.4%	10,322	19,500	101.0%
電子機器	832	289	△ 989	△ 700	-	1,211	1,500	-
合計	19,352	9,467	9,533	19,000	-1.8%	11,533	21,000	90.5%

2004年2月6日

17



通期業績見込みの詳細は上記のとおりです。

ミネベア株式会社決算説明会

<http://www.minebea.co.jp/>

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。

実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

2004年2月6日

18

